

【司会（細野）】 では、お待たせいたしました。また、会場を準備してお待ちしておりました。おはようございます。今日は総合司会をさせていただきます、市民協働課の細野裕です。

ぜひ、今日は一緒に貴重な時間を過ごそうと思っていますので、これからふれあいフォーラムを開催させていただきます。ここまで今回のフォーラムは、去年12月に皆様のお力をおかりして、ワークショップ、地域の課題や状況を広く、さらに広く、役員の方を中心にしながらも知っていただくということで、ご協力をいただき、あるいは叱咤激励、アドバイスを受けて、楽しく過ごすことができたように思います。

それを踏まえまして、プログラムについても一緒に、4カ所の小学校区の方々のご意見を踏まえ、そしてそれを今日プロデュースしていただく亀井善太郎さんにご相談申し上げ、それで今日のプログラムをつくりました。ですから、協働のスタイルが、相談の上でできたかなと思って、今日を迎えています。

ちょっと今日の参加者なんですけれども、今ここにいらっしゃるの、まず沼間小学校区の方、支援の担当職員もちょっと手を挙げて。沼間小学校区から来てくださった、それから担当職員。ありがとうございます。

それから、池子小学校区、池子の方々。ありがとうございます。

それから、今度4月16日に協議会が設立されますが、準備中の準備会で、久木小学校区の方。ありがとうございます。

それから、早々と沼間と一緒に立ち上がっておられました小坪小学校区の方々、手を挙げてください。ありがとうございます。

それから、連絡会ということで力を合わせよう、こうしようかということで、逗子小学校区で動いているの方々、手を挙げてください。ありがとうございます。

という皆さんと、市民協働課に加わっていただいております。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、今日、まちづくりを進めていく上で共有できるものは何か、それから地域の特性はなるほどというふうに、皆さんと知り合える、顔見知り度を上げて、そして自分たちのまちを愛する行動を共有できればと、2時間ばかりですけれども、どうぞよろしく願いいたします。

では、最初に、日ごろ皆様に感謝を申し上げます平井市長から、お話をいただきます。

【平井市長】 皆さん、おはようございます。今日は日曜日の朝早くから、これだけたくさんの方にお集まりをいただきまして、ほんとうにありがとうございます。日ごろからそれぞれの地域で、地域のためにさまざまな活動、ご努力いただいていることに、ほんとうに心から感謝を申し上げたいと思います。また、亀井先生も昨年から、それぞれの地域でワークショップをととても楽しくまとめていただいて、ほんとうに皆さんが和気あいあいと地域を改めて見直して、これからの自分たちのまちのことを考える、そんな機会をつくっていただきまして、ほんとうにありがとうございました。

住民自治協議会って何ということ、この間、一番早くスタートした沼間、もう3年目を迎えるわけですが、ほんとうにそれぞれで自分たちのできることをやってこられたんだと思っております。今日こうして、それぞれの地域の皆さんが集まって、共有できる時間を持つたというのは、とても私としてもうれしい一言でございます。特に、今日はどういう話になるかわかりませんが、ぜひこれからの先、将来どういう地域をつくっていききたいのか、そんなことにも思いをはせていただきたいなと思っております。

というのは、特に東逗子と小坪地域はご承知のとおり、総合的病院の誘致、これが改めて再開して、この東逗子のエリアというのが、近い将来大きく変貌を遂げることになると思います。あの東逗子の駅前の土地の活用についても、皆さんとともに議論していかなければいけないなと、そんなふうに思っております。あるいは小坪のほうでは、オリンピックというのが2020年まであと3年半となりました。これを契機に、改めて小坪地域をどう活性化していくかということも、行政としてもしっかりと将来を見越して、皆さんと議論を重ねて、ビジョンを描いていかなければいけないなと、そんなふうに思っております。

あるいは高齢化が進むということで、地域包括ケアと言っておりますけれども、地域の中でも支え合う、そういった関係づくりというのを、皆さんとともに築き上げていかなければいけないと。ほんとうに今大きく時代が変わっていく中で、逗子がどうこれからと皆さんと力を合わせて、より持続可能な発展できるまちに成長していけるのかということ、今日それぞれ皆さんの地域からのご意見を踏まえて共有できればなと、そんなふうに思っております。

1つ、最近僕はこれを必ず言うんですけども、平成28年度から、逗子が人口増加の傾向を、この10カ月間ぐらい持続しております。これはとても私としてもうれしいことで、それだけ逗子市の人もちろん住み続けたいと思っていただいているし、さらには市外からこの逗子に住みたいということで、特に30代、40代の子育て世代が比較的安定して転入している

ということで、この28年度、人口の増減で言いますと、1月1日現在でプラス166なんです。昨年度までは若干減っていったんです。それが28年度に、わずかとはいえ増加の傾向で推移しているというのは、まさに地域の皆さんがほんとうに活発にそれぞれの地域で頑張っていたら、それが多くの人に、あっ、逗子っていいなと、外から見ても実感している、そういったことのあらわれかなと思っております。

ぜひ、これからも今日のフォーラムをまた一つの契機に、皆さんと色々な課題を共有して、すばらしい、この逗子のまちづくりを進めていきたいと思っておりますので、どうぞ今日はよろしく願いいたします。

以上です。(拍手)

【司会(細野)】 ありがとうございます。うれしい情報、最新のニュースも今いただきました。皆さんとともに喜びたいと思います。

では、今日これから、プロデュースしていただきます、立教大学大学院の特任教授という肩書をお持ちの亀井善太郎さんにお任せしますので、どうぞよろしく願いします。

それから、逗子の職員の皆様も、自分の考えで今日は市民の方と同じに参加していただいて、課を背負ったりとか何かを背負ったりじゃなくて、住民協に関してどんなふうに自分は仕事人としてかかわっていくか、あるいはかかわってきたか、思いがあるか、どうぞ平等な立場で発言をしていただきたい。市民の方もそれを期待しておりますので、それだけお断りしておきます。どうぞよろしく願いします。

【亀井】 改めましておはようございます。久しぶりですという人もいれば、初めましての方もいらっしゃると思います。12月からですから、何か長いのか短いかわかりませんが、年を越しましたので改めてよろしく願いいたします。

今日の話は、今ももうずっとお話がありましたので繰り返はしませんけれども、今までの振り返りをして、次に進むステップを明らかにしましょうということでもあります。12月にそれぞれの小学校区でやりましたよね。いろんな事情があってやらなかったところもありますが、もう別にそんな過去のことはどうでもいいですから、先に進むということで、そこら辺も含めて今日はお話をしたいと思います。

日曜日の朝から夕方、今日も朝からですがけれども、何かいろいろと予定があるのに、あんなにたくさん集まって大したものだなというのか、地域のことでみんな集まると楽しかったでしょう。あれをちょっと振り返りながら、これから先々どうやっていくのかという話を今日はしていきたいと思っております。

それぞれ池子、久木、小坪、それから沼間ということで、4地区の代表の皆さんに、席が今あいていますけれども、ここにご登壇いただいて、それぞれから、その後どうだったのか、やってみてどうだったのか、それから、これからどうしようと思うのかという話を今日はしてもらおうと思っています。

もう既に時間が若干押してしまっていて、だから僕は短くしなきゃいけない。逗子はいつもそう。ほかの地区を知らないかもしれませんが、久木は大変だったんですよ。久木は僕がしゃべる時間が7分しかなかったんです。

9時50分から各地区から報告してもらって、これは全部5分刻みでもう全部やりました。1人ずつ3分とかも全部決まっています。10時25分、10時45分、こんなふうになっています。簡単に言うと、まず各地区から、どうだったかという話を報告してもらって、それからその後、各地区について、それぞれ自分の地区以外のことを聞いていないじゃないですか。だから、ほかの地区が聞いてみて、これ、皆さん、ちょっと済みません、代表の方、プレッシャーかかりますよ。お話をしていただきたいのは、これはいいなとか、自分たちも取り入れたいなと思うこと、それから、もっとこうしたいほうがいいんじゃないかという提案。無理に提案しなくていいです。あと、批判はしなくていいです。こういうのを取り入れたいなということを、ぜひ皆さんからお話をいただきたいなと思います。

それから、会場の皆さんから、またいろいろとご意見やご質問をいただきたいと思います。会場の皆さんもぜひ、この頭でいてください。これはいいな、自分たちも取り入れたいなとか。幾らでも批判はできるんです。でも、批判したってなかなか前に進みません。大事なことは、いいことを取り入れること、だめなことは目をつぶること。私なんかいつもそうです。かみさんからもそう言われています。もう今さら言ったって直らないからと言われてますから。そういう話でありまして、そういうことをぜひいただきたいと思います。

それで、これから何をしていくかということで、最後に私からちょっと話をして、今日は1時半ぐらいに終わりたいと思います。

ワークショップで話し合ったことをちょっと思い出してみましよう。全部で大体まとめると、これをお願いしますと言ったのもあるんですが、やっぱりこの6つぐらいになりましたね。安心・安全の話。それから防災・減災の話。何かあったら大変だよねと。ここは海にも近いし山もあるし、あとは崖も崩れたりするし、台風が来ると大変だしという話もありました。そういうお話。

それからあとは子供の話も結構あったと思います。これからどうこの地域で育っていくのか。

今、市長さんからもお話がありましたよね。若い人たちが増えてきているんだけど、だったらその子たちのために何ができるんだろうかという話。それから、ごみの話、環境の話。さらには、これからはもっと大事にしていけないといけないよねという資源の再生の話なんかもありました。

一番多かったのは5番目です。仲間づくりの話。今日は比較的平均年齢が高いのか低いのかは、あえて申し上げませんが、やっぱりどういうふうに若い人たちに参加してもらおうかね、でも、なかなか若い人たちは忙しいよねと、こんな話もあったかもしれません。そういう中で、でも実は結構こういうところに参加できること自体元気なんだから、それはそれで喜んで、一方で急に来られなくなっちゃう人もいるんだけど、それもしようがないよねというような話もあったかと思います。

私が今回、それぞれ3つの小学校区の協議会に参加させていただいて、すごく印象に残った話を幾つかさせていただきたいと思います。

1つ目はこれです。この地に生きてきた一人ひとりの記憶と思い出を大切にしよう、それから、そこに込められた知恵を大切にしよう、こういう話です。私が最初に逗子でやらせていただいたのは池子だったんです。池子は岩の上の神社があって、その隣にある自治会館でお話をさせていただいたんですが、そこで会長さんがお話をされたのは、この地域の歴史の話から始まりました。今でも覚えています。ほかの地域もそうだったんです。

久木に行ったら、「わたしのふるさと久木」という、この冊子が置いてありました。ちょっと前の人たちが調べた、この地域の歴史の話がありました。小坪はこれ。これは逗子マリーナの前です。逗子にも海岸があったんです。これを見て、わっと言ってくださった方もいました。昔の記憶です。女の子なんだけど全部脱いじゃって、小学校の後、浜に行ったのよなんて、そんな話を伺いました。まさにこういう思い出の話がありました。

こういう古い思い出もあれば、つい最近の新しい思い出もあって、子供と遊んだとか、子供が自転車に乗れるようになったというのは、結構地域に生きていく思い出の一つなんだと思うんですが、私もそうです。子供の自転車に乗れるようになった坂道とか、そういうのは大事なんですけど、それぞれにこのまちへの思いがあるというところを確認するところから始まったのかなというのが、別に私から何か仕掛けたわけではないんだけど、皆さんから出てきた、このワークショップの共通の思い出でした。このまちに生きている。

もっと言うと、古くからいる人もいるし、最近来た人もいるし、先週来た人もいるわけですよ。だって、今の市長さんの話はそうですよね。そうじゃなかったら人口は増えないですから。

もっと言えば、ずっとさかのぼると、いや、うちは鎌倉の前からかなみたい。別に、あなたが鎌倉から前じゃないんだろけどという話もあるんだけど、すごく古い人もいるし、新しい人もいる。でも、それぞれに大事なことは、それぞれが思いを持っているということです。

この地域で、おじいちゃんを送った、おばあちゃんを送った、そういう人もいれば、お父さんがここを選んで住んだんだけど、やっぱりいいところだから自分もここに残ることにしたという人もいます。それから、最近越してきたんです、やっぱり逗子は海があって山があつていいね、人がいいんだよねといつて来る人もいます。それぞれ長さは違うかもしれないけれども、それぞれにこのまちへの思いがあつて、それはそれぞれに尊いんだというお話が、結構皆さんから出てきたような気がします。これは僕はすごく大事なことだろうなと思います。

それから、こういう協議会をやっているとねという話で出てきたのは、ちょっと話が変わりますけれども、大きい声があつて、小さい声があつて、声なき声があるよねという話になりました。これは、大きい声はわかりますよね。大きい声の方はたくさんいらっしゃいますから。そうでもないかな。それから、小さい声もあります。結構実は、こういう協議会で支援を必要としている人は、なかなか声が出しにくいんじゃないかというご指摘を、皆さんからいただきました。だから、声なき声に耳を傾けよう。大きい声を出している人はそれでいいんだけど、そういう人にどうやったら耳を傾けられるか、皆さんからいろんなお知恵をいただいたように思います。そういう見えない人への想像力とか思いやりとか、ちょっとあそこは新しく来たんだけどわからないけどねという話にならないようにするにはどうしたらいいか、こういう話もあったのかなと思います。

それからこれです。地域に冷たい「数字」を持ち込まない。私が幾つか挙げたのは、先週の集まり何人、これは持ち込まない。だって、何人集まったかが大事じゃなくて、そこに集まった人が、ああ、いいことできたとか、みんなのためになったとか、それから、楽しかったねとか、また集まろうねと思えることが大事でありまして、ここに数字を持ち込んで、何か減っているねとか。それは減るのは当たり前なんです。さっき人口が増えているという話がありましたが、基本的に日本という国は全体で減っていくわけですから、そういう中でなかなか増えていく数字というのは難しいし、数字だけ追いかけていくと何か間違える可能性がある。

もっと言うと、偏差値を持ち込まないみたいな話もありましたよね。俺はどこの高校を出てとか、どこの大学を出てとか、どこに勤めていてみたいな話を。これは男性に多いんです。これを気をつけましょうという話をしました。

こういうのを持ち込むと、いや、そんなことよりも、地域で大切なことは、今日これが終わ

った後、皆さん、やらなくていいですよ、これはそうですけれども、この椅子を片づけられるかどうかです。地域で大事なことは、ここでみんなで集まった。集まった後、みんなで片づけを手伝えるかどうかということでありまして、そこで学歴とか職歴とか履歴書みたいなものを持ち込んであまり役に立たないねと、こういう話でありました。

それよりも企業時代にいろいろと培ったノウハウで、例えば僕は助成金の申請ができます、こういうところにお金の申し込みができますとか、こういう交渉ができますとか、そう言うのと頼りになるわけです。まさにそういうことをぜひやってほしいなという話が出てきました。

それから、またこれは違うんですけれども、一つの手段、複数の目的でありまして、これは例えば、あまりイベントばかりやっちゃうとイベント疲れが出るから、そうじゃなくて、つながりをもっと求めていったほうがいいんだみたいな話がありました。でもつながりというのは、子どもの見守りをしていて、実はそれは、おじいちゃん、おばあちゃん自身のお互いの見守りもあったりするんだみたいなこと。地域で何かをするというのは、実は目的は1つではなくて、結果的には複数になる。これは自分自身もやりがいも含めてです。そういうふうを考えていくと、いろんな地域でやることというのはあるんじゃないかなと、こういうアイデアも皆さんからいただいたように思います。

それから、資源が無尽蔵にあるわけじゃありません。市役所が全部お金を出してくれるわけじゃないし、自治会費を集められるわけでもありません。協議会ですとって、だからお金をもらえるわけでもない。もちろん、それはそれで一定の資源は出てくるかもしれないけれども、資源には限りがあります。だから、あるものをうまく使う。立っているものは親でも使えという話がありましたけれども、まさにそういう話でありまして、そこにある人、物をどうやって使っていくか、地域にある資源をどうやって考えていくかということが大事だなという話がありました。

それから、一人だけに任せない、担う機能、これも同じ話ですね。これは結構大事です。誰かがやってくれているんです。それから、誰かが汗をかいてくれているんです。何でこの自治会館きれいなんだろうな。誰かが掃除してくれているんです。これは別に業者さんではないです。自分たちの仲間です。その仲間が誰かというのを知っておくことは、すごく大事なことになるかなというお話もありました。

でも逆に言うと、その誰かのために頑張っているというのも、人のためじゃなくて、情けは人のためならずみたいな話がありますけれども、自分のやりがいにもなるよねという話がありました。

それから、来るもの拒まず、去るもの追わず。やれるうちがやっぱり健康で元気だから幸せなわけでありまして、これがなかなかできなくなっちゃう場合もあるわけです。そういうところも考えてやれるといいねなんて、こんな話もありました。

これは私のまとめですけれども、大切なのは、協議会というのは目的じゃない、協議会があることが目的ではなくて、協議会というのは、この地域の暮らしやすさ、この地域の何か嫌な話、そういうのを小さくする、不幸を小さくして幸せを大きくする、この地域で暮らしていきたいなとみんなが思えるようなことをするための方法論、あるいはみんなが集まるための方法論でありまして、そこ自身は目的ではないわけで、さっきも市長さんからお話がありましたけれども、地域の暮らしやすさをどうやってつくっていくのかという問い、まさにこれは問いです。この問いをこれからはどうしていくのか、この逗子のそれぞれの地域、自分たちの住んでいる地域、周りの地域をどうしていくのかという問いを見失わないことが大事なんじゃないかなと思います。

そういう意味では、それぞれの地域の皆さんから、これからお話をいただきます。別にこれはハードルを上げていないですから、大丈夫ですよ、4人の皆さん、安心してしゃべってください。ぜひここでお話をいただきたいんですが、これからの地域でそれぞれ何をやっていくのかというお話をいただきたいと思います。

それからその後、ほかの地域の報告を聞いて、これはいいなあと。だから報告が終わったからって安心しない、できないのがなかなかつらいところでありまして、代表の皆さんにはほんとうに申しわけない限りなんですけれども。

それから、代表が言い切れなかったら、うちの地域はこうだからと、後で会場から皆さん意見を下さい。そんな形で進めていきたいなと思います。だから会場の皆さんとの対話もあります。で、最後にこんな話をしたいと思います。

というわけで、次はこういう形で各地区の協議会の代表の皆さんから、ワークショップの報告とその後をいただきたいと思います。では、4名の代表の皆さん、それぞれご登壇いただけますでしょうか。

では、最初に池子からという形になりますので。では、池子から。ちょっと池子はパワーポイントを使って。スライドは私のほうで送りますから言ってください。では、よろしく。じゃ、皆さん、拍手。(拍手)

【齋藤】 おはようございます。池子住民協の齋藤でございます。

今日はワークショップの振り返りということでもありますけれども、私どもは先般、住民協で

アンケートをとりまして、その集計結果が出ましたので、今日はその集計結果をこの場をおかりしまして、ちょっと発表させていただければと思っております。ただ、今、先生から、数字は出すななんて言われましたので、ちょっとプレッシャーを感じました。

【亀井】 冷たくないから大丈夫。

【齋藤】 そうですか。よろしくお願いします。

それでは、まず私どもの住民協は、10月初めに2,273世帯にアンケートを配布しました。そして、11月末ごろに1,133件、50%強の回答をいただいて、その集計結果がまとまりましたので、今日そのほんの一部ですけれども、ご説明をさしあげたいと思います。それでは早速入らせていただきます。

グラフを見ていただきますが、まず最初は、池子の住み心地についてアンケートをとらせていただきました。そうしたところ、池子に住んでいてよかったよ、やや満足しているよというのを合わせますと、約65%の人が池子に住んでいてよかったなという結果になっております。

【亀井】 この青と赤ですね。

【齋藤】 青と赤です。それで、この池子に住んでいてよかった意見を聞いております。そうしたら、池子地域というのは、皆さんご存じのように、40%の返還がありまして共同使用している池子の森、さらには運動公園、そして池子には高校、中学、小学校とありまして、緑が非常に多く、なおかつ自然もたくさんあるよということで、非常に住んでいてほっとするまちですねという意見と、池子は京浜急行の神武寺駅を抱えておりまして、バスも、アザリエ循環、逗子駅へのバスもありまして、都心へ出る交通、通勤、通学にも結構便利だなという意見が多くありました。

ただ、住んでいてこういうところが不便だな、こういうところを直してくれたらいいかなという意見もたくさんありました。そのうちの 하나가、池子はやはり、逗子特有ですかね、坂道が非常に多いんです。

そしてなおかつ、池子は神武寺駅を抱えていながら商店街がないんです。コンビニ軒ないんです。アザリエの上のほうにスーパーが1軒あるだけなので、大きな買い物については逗子へ出ればいいんですけど、ちょっとした買い物、しょうゆが今日なくなっちゃったからどうしようとか、そういう問題については、お年寄りには非常に苦労しているということと、あとはバスなんですけれども、東逗子へ出るバスがない、それからアリーナ、あそこへ行くバスもないということで、ちょっとその辺を直してくれれば、もっともっと住みやすくなるなという意見がございました。

続きまして、私どもの住民協でこれからどうしていこうかということで、池子で今後取り組むべきものについて、皆さんの意見を聞いてみました。これは防犯、防災関係の4項目についての意見をもっております。ただ、このグラフを見ていただくとわかるように、「どちらともいえない」とか「無回答」というのが、4項目とも50%を超しちゃっているんです。なおかつ「整備されている」、「今後取り組むべき」がほとんど同じパーセンテージ、30%ぐらいという結果が出ているんです。

意見をいろいろ聞いてみますと、池子は先ほども言いましたように、商店街がない、住宅地ということで、防犯カメラがほとんど設置されていないんです。それでなおかつ、街灯が少ないというんですか、距離が長いというんですか、暗くて夜道を歩くのに怖いというような意見も出ているわけです。防犯カメラは犯人を捕まえるだけでなく、防止力というものも必要なので、防犯カメラの問題も大きな課題の一つになっております。

また、緊急時等については、独居老人の人たちから、災害時支援対策をとってもらっているんだけど、私たちはどうしたらいいかというような意見も出ておりました。これから住民協は、この防災、防犯については、グラフ結果をもとにしながらも、もっと課題として取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思っております。

次に、やはり取り組むべき問題の中で、ごみの問題について聞いております。これについてはほとんど整備されているよというのが52%と、大きくごみについては非常によい結果が出ております。ごみ有料化になりましても、ごみステーション、ごみボックス等もちゃんと整備されておりますので、この問題についてはいいと思いますが、ただ、まだまだ不法投棄があるよとかいう問題もありますので、これも課題の一つかなと思っております。

続きまして、高齢者、障がいがある方が安心して暮らせる生活環境ですかということを見てみました。そうしたら37%の人が、今後取り組んでくださいよという意見なんです。これはどうしてかということやはり、逗子というか、全国的にそうだと思うんですけども、今、高齢化社会が進んでいますよね。そういうところで自分たちの生活していく上でのほんとうに切実な問題がいっぱいある。以前も先ほど言ったような坂が多いとか、いろいろな意見がありますので、これについてはやはり池子の住民協は、ほんとうに中心になって取り組んでいく問題だと思っております。

続きまして、健康まつり、夏祭りなど、地域の行事に参加していますかということを見てみました。そうしたら、ほとんどの人、50%以上の方から、こういう行事には参加していますよという回答を得ております。池子は池子神明社という神社がありまして、その夏祭りもあ

りますし、それから体育会主催の池子健康まつりという運動会もあります。盆踊りもやっていますし、いろいろな地域活動をしておりますので、これからもみんなで楽しく、この地域活動に参加していただければと思っております。

最後ですけれども、私ども池子住民自治協議会の認知度、どういう形で皆さん知っていますかと聞いてみました。そうしたら、「知っている」、「なんとなく知っている」、「聞いたことがある」ということで、60%以上の方が一応住民協を知っているよと答えてくれたんです。これは非常にうれしかったです。

ただ、私どもは住民協ができる準備会のころから、フェイスブックを活用して、広報活動をしております。住民協ができてからも、池子住民協たよりというのをつくって、住民の皆さんに配布して、そういう広報活動の成果で知ってもらっているのではないかと思っております。

そういうことで、一応グラフは終わりなんですけれども、先回のワークショップでは亀井先生に指導していただきまして、池子の抱えている問題、それから課題等を、やわらかい発想で解決の道を教えていただいたわけですが、これから私どもはこのアンケートの結果を生かして、実現する可能性を検証して行動していければ、もっともっと住みよい、ほんとうに理想的なまちになっていくのではないかと思っております。

そのためにも、私たち池子住民協は、私どもがつくった組織力を生かしまして、なおかつ行政さんの連携、協力を得ながら、実のある地域活動を実施していくことが非常に大事だと思っておりますし、池子住民協がこれからもこの活動を続けていけば、地域に根をおろして、もっともっと認知を押し上げてくれるのではないかと思っております。

以上でございますが、ありがとうございます。(拍手)

【亀井】　　じゃ、続いて、田倉さん、お願いします。

【田倉】　　はい。私は、久木小学校区の住民自治協議会設立準備会並びに山の根自治会のメンバーであります田倉です。今日はよろしく願いいたします。私はプロジェクターを使わず話し続けます。ちょっとテーブルがないので、資料の関係上座って話しますのでお許しください。

今日、私の話すテーマは、この久木小学校区のワークショップについて行われた内容の報告、そして2番目に、私自身が参加して感じたこと、考えたこと、この2点についてお話しさせていただきます。

昨年12月11日の日曜日、午前10時から3時まで、久木会館において開催されました。参加者は45名、地域関係が33名、行政関係者が12名。この地域関係者33名は、準備会

の役員並びに各自治会関係者がほとんどの内訳でございます。

次、具体的なワークショップの内容に入りますが、各チーム6人から8人で構成されておりまして、5チームを形成いたしました。技法としては、私の年齢では非常に懐かしき、あのKJ法に類似した問題解決技法で展開した次第です。がゆえに、島づくりは3つでございます。1つの島は、久木小学校区の課題と取り組みたいこと、2つ目の島は、取り組みに当たり障壁になるもの並びに実現する方法、3つ目の島は、行政に求めるものです。この3つの島を整理してご報告いたします。

まず1つの島は、久木小学校区の課題と取り組みたいことです。

大きな枠として、子育て、子供たちに関すること。この件について出た意見です。ゆっくり読みます。「パパ、ママたちは既存組織に入らない」、「発達障害等ケアが必要な子供たちが増えている」、「子供たちの活動場所が少ない」、「通学路の安全確保」、「学校支援」、「山の根の里の充実（子ども会協働作業）」。

2つ目の大きな枠は、高齢者に関すること。「独居老人と高齢者の二人暮らしの対策」、「高齢者の交通手段、買い物支援」、「認知症の徘徊対策」、「高齢者のごみ対策」。

先ほど先生から、わりと大きな話だったという人材に関する件。「町内会行事に若者が参加してほしい」、「役員の高齢者問題」、早く引退したいという声多々あり。「町内会に女性役員を入れたい」、「部会に新しい人材を入れる」、「地域に思いのある人の発掘」、「担い手発掘のため、知らせる機会を意識的に捉える」、回覧とか勧誘等のツールによって。

そして単発の意見として、「民生委員・児童委員の充実」、「空き家対策」、「自治会の強化」、「有償ボランティアシステム」。

2つ目の島、取り組みに当たり障壁になるもの並びに実現プラン。

まず壁のほうですが、「活動拠点への送迎の問題」、「地区の特色の壁」、「有償で働く財源」、たびたび出ますが「人材不足」。では実現プラン。「高齢男性のサロン」、「毎日サロン」、「顔見知り活動（向こう三軒両隣）」、「スキルの高いキャリア豊かなパパ、ママの活用」、「ボランティア登録」、「私のできることの募集」、「地域を知るプログラム」、先ほど先生が、自分たちの住んでいるところの重要性を話しましたが、この地域を知るプログラムとは、歴史散歩等の企画です。「久木会館のイベント企画の充実」、「高齢者の毎日の生活をリサーチする」、「空き家を集めて自主保育プロジェクト」、「高齢者の見守り（黄色いハンカチ活動）」。

以上がワークショップで展開されて、もっとこれ以上たくさん意見が出たんですが、私のほうで島を3つ分けしまして、ポイント、ポイントを絞ってまとめた次第でございます。

そして、次、私がこのワークショップで感じたこと並びに私自身が考えていることをお話しいたします。このワークショップにおいて、昼食の時間で若宮会久木メンバーの方がつくってくれた豚汁、山の根自治会メンバーの方々がつくってくれたアルファ米使用の五目ご飯、私は結構食通なんです、まさにこれは最高の昼食でした。これは食したせいだと言うんですが、いや、もちろん先生のリーディングも非常に大きかったんですが、ワークショップは楽しく和やかに愉快に過ごせました。これはほんとうに世辞ではなくて事実です。

そして私が所属したチームは、行政の方が3人、自治会の方が2人、立教大院生が1人の計6人でした。この行政3人のうちお二人は久木在住の方でありました。これも短い時間でしたが、コミュニケーションはとても良好でした。

余分な話なんです、時間内におさまるから大丈夫だと思うんですが、私の隣に立教大院生のすてきな女性が座っておられまして、その方とちょっと話して、今何を学んでいるんですかと言ったら、21世紀に送るまちづくりについてを学校で勉強しているという話を聞いて、私はすごくびっくりしたと同時に、いや、やはり21世紀のこのまちづくりというのは、かなり重要なテーマなんではないかという、そんな感じを受けました。これは余分な話です。

私のチームでの発言内容は、その人の現時点の生活感からの発言が多かった気がいたします。これは十分に留意しておく必要があると思います。それから、5チーム全体の発言の内容について、私が思った、考えたことは、まさにシーズというか、ピースというか、それらのオンパレードでした。それは大変見事だと思いました。

でも、そこで私がふと思いついたことは、ああ、やるものがたくさんあるとか、これもやろう、あれもやろう、いいアイデアだということを考える前に、このシーズというか、ピースの一つ一つには、きっと何か奥行きがあり、それが隠されているものだと思うんです。その奥行きをえぐり取り、本質をつかむことが、とても必要になるんじゃないかということを感じました。

そしてそれを広くみんなで共有して、その先に事業テーマが来るんじゃないかと感じました。そしてなおかつ、この過程において最も留意すべきことは、住民協と自治会、町内会の関係性、住民協と自治会、町内会の立ち位置、これを常に明確にし、十分に納得していくことではないかということ強く感じた次第です。

以上でございます。ありがとうございました。(拍手)

【亀井】 ありがとうございます。

じゃ、三原さん、お願いいたします。

【三原】 小坪小学校区の三原です。よろしくお願ひします。私のほうもペーパーで多分お配りされていると思うんですが、「小坪小学校区の行政の合同ワークショップのふりかえり」ということで、去年の12月18日、小坪のコミュニティーセンターで行われた合同ワークショップについてご説明申し上げます。

参加者は47名、地域が38名、行政が9名ということで、グループワーク数は7つでやりました。

それで、その前に小坪小学校区では、アンケート等によりまして皆さんから課題を出していただきまして、それを抽出して、部会活動を今行っているところです。6つの部会を設けております。皆さん、今までおっしゃってきたように、防災部会、防犯部会、ゴミ問題対策部会、空家、空地問題検討部会、それからふれあい部会、それで最後にミニバス（コミュニティーバス）の部会、この6つで集約して、今、この部会活動を行っているところです。

それをまず念頭に置いていただいて、7つのグループでいろいろそれぞれの皆さんの意見が出されたものを、私なりにまとめてみますと、大体カテゴリーとしてはこの6つの部会のカテゴリーに当てはまるものが、次のページ以降にあります。

まず、防災について出た意見をご報告しますと、自治会ごとに防災レベルが異なる。代表者は任期が1年のところが多いので、防災委員会をつかって、自主防災のレベルアップと継続性を担保したほうがいいんじゃないか。それから、災害が起きたとき、孤立しないか不安である。情報を共有できる場所をつくる。災害時の備蓄品についてそれぞれ問題がある。災害時の避難路がない。災害時に高齢者をどのように支援するか。自治会ごとの掲示板等情報ネットに流し、情報の共有化を図る。大体この倍ぐらいの意見が出ているんですが、集約したものがこういったものです。

それと、防犯については、ボランティア不足。これほどこもそうだと思うんですが、ボランティア人員（青パト要員、見守り要員）の確保が必要である。それと、その対策として、70歳になったら地域デビューをしてもらおうということです。あとは子ども、高齢者を見守る地域の目を醸成したい。これは一朝一夕にはできないんですが、地域の目をそういったもので見られるような地域にしていきたいという願望です。あとは、ボランティア不足は募集しても集まらないというが、諦めずに回覧に載せてください。ワンワンパトロールも同じと。

それから、我々は青パトを運行しています。これは青パト専用車両を運行しているんですが、年間やっぱりこれの運行経費として20万ぐらいかかっています。その青パトの資金不足。これは自治会からいただくお金だけはとても賄えませんが、青パトを運行するボランティアの

人たちが、賛助会員という名目で、各商店の方とか、そういったところに寄附をお願いしている。大体2,000円から、多いところは5万円いただいているところもあるんですが、そういったことによって青パトが何とか運行されている。

これはちょっと私の個人的な考え方でいくと、ボランティアで青パトを運行している人たちが、その青パトを運行する費用を捻出するために寄附を募って回るという行為は、ほんとうにそれでいいのかということで、市長にお願いをして、交付金の中から出してもらえないかと。20万とは言いません。ただ半分でも出してくださいよというお願いをしているんですが、それはちょっと後でまた話をします。

それとあと、人が足りなければ一本釣りをしていったらどうだろうということとか、小坪では、光明寺団地というところでストーカー殺人が起きました。これは3年前でしたかね。それで、そういった意味で防犯の強化はどんどんしていったほうがいいねという意見がありました。

それからごみ問題なんですが、このごみの出し方。やっぱり分別ができていないというごみの出し方です。

それから町内会以外の方が町内会のごみステーションに出している。これはどこもあると思うんですが、非常に根の深い話で、行政でもいろいろ話し合っていないといけないんじゃないかと。

それから高齢化により、ごみの出し方のルールが理解できない人がいる。これも今後非常に起こり得るであろうということ、どうやって、わかっていただくというのは難しいですから、資源をどうするかということが一つ問題がある。

あと、アルミ缶とかスチール缶の出し方の問題で、自分のうちの前にそのごみステーションのある方の話なんですが、朝早くからある一定の時間まで、ガチャガチャうるさいんだよ、こういった話があります。

それから、なぜごみステーションがきれいに使われないのか。収集時間を掲示するとか、そういう問題がありますねということです。

それから、資源ごみを活動費にしようよという話もありました。

あと、空家問題。これはどこも抱えている共通の問題点だと思うんですが、樹木だとか草がぼうぼうで、火災の危険性だとか、防犯上の問題がある。それから空き家の活用としては、先ほどもちょっと出ていましたけれども、1人から5人ぐらいの小規模保育園を高齢者が運営してはどうだろう。あとは住民協に目的別組織、NPOだとかPTAだとか子育てグループを加

入させる。PTAは現在入っているんですけども。あと、空き家対策の専門家に相談して、小坪シェアハウスの事例等を聞かせていただいたらどうだろう。あと、空き家でカフェ、それから情報ステーションショップ、このようなことをやったらどうか。あと、空き家で小坪ブランド作業場サロンを経営し、収入を図る。子供世代向けの伝承、おじい、おばあ の能力を発揮する。それと、一番の問題は空き家の所有者がわからない。これは行政とタイアップしてやっていかなきゃいけない話があるんです。

それと、ふれあいですけども、地域の人が目的意識を共有して、語り合う場をつくりたい。楽しく明るく健康的なイベントの実施。

小坪の運動会を大きくやる。今も体育協会で小坪の運動会をやっていますけれども、残念ながら企画に各自治会が参画していないという点もありましたので、やっぱりある自治会の人たちからは、もっとそういうことも参画して、大きな運動会をやってもらいたいという話が出ています。

それから、ご近所サロン（大盛況）、大谷戸麻雀の会（大盛況）。この大谷戸麻雀の会というのは、大谷戸会館というのが小坪にできまして、ここで毎週水曜日ですか、麻雀をやっていますけれども、70名ぐらい会員がいて、葉山だとか久木のほうからも、タクシーに乗ってくる人もいます。すごく大盛況です。あと、カラオケ大会とかトランプの会とか映画会。これは実際やっていることです。こういったことをもっとアピールしていったらどうだろうということ。

あと、あいさつ運動の強化。これは市民協働課でしたか、のぼり旗を用意していただいたのが、小坪というのは非常に風が強いところでして、びりびりになるんです。ですから、住民協会で新しいのぼり旗を用意して、マチをとってびりびりにならないようにして、住民協という名前も入れて、あいさつ運動ののぼり旗を、25カ所でしたか、立てています。

それと、高齢者の仲間づくり。近所の仲間が家をめぐってお茶会や脳の活性化につながる楽しむ会があったらいいね。それと子育て支援。それから小坪花火大会もやったらどうだろうということですか、他団体が行うイベントに積極的に参加、協力していく。伝統文化の継承。

それから、ミニバス、コミュニティーバスですけども、高齢者の足を確保。買い物支援、通院支援を行う。坂の多い地域でのミニバス運行。坂が多いのでマリーナ始発、緑ヶ丘経由鎌倉行きのバスを新設してもらったらどうだろうということで、逗子というのは大体坂が多いところですけども、特に小坪は、浜以外はほとんど山なんです。その山を崩して分譲地にして、いろいろな自治会ができている状態です。これはちょっと後から話をしますけれども、なか

なかついの住みかになりにくい。高齢化になってくると足弱になって、お二人で住んでいらっしゃるときはいいんですが、お一人が欠けると、同じ逗子の中でもマンションに越されるといふこともありますので。

あと、その他というところで、歩道がないところがあり、歩くのが怖いとか、生活道の安全確保（夜暗い）、待機児童問題。それから、店がきれいでない、少ない、まとまりがない。先ほどの池子から比べると、まだ店はあるんですけども、こういったことを言っています。

それと、住民協の問題点としては、地域住民と住民協のコミュニケーションをどうするか具体的な方法。それと、自治会、部会の活動を見える化しよう。あとは、全員参加型の協議会を望む。自治会、各種団体との役割分担の明確化。タブレット、スマホで情報共有。市への諸手続が面倒である。

あと、行政に対しては、小坪小学校区にかかわる問題について、一自治会が行政に要請を行った場合は、行政の窓口として、地域にかかわる課題なので、住民協を通して要請を行ってくださいとはっきり言っていただくということ、これは前からお願いしているんですが、あくまで自治会単独で行うのはいいんですが、地域にかかわる問題、例えば防犯とか防災とか、そういった同じ課題の問題については、やはり1つの自治会が突出していくのではなくて、住民協を通してやってくれというのを、窓口できちっとやっていただかないと、後々面倒な話になるよと。市長のところに行くと、市長は住民協を通せよとおっしゃるわけです。それは当然の話として。だけれども、窓口が受け付けちゃうと、それがややこしくなるということをここで言っています。

あと、縦割りをなくして横串を通してほしい。それから、住民協の認知度を高める方策が欲しい。青パト運行にかかわる経費の補助をしていただきたい。オリンピック関連訪問者への案内板設置をしたらどうだろうか。それと、空き家持ち主情報を提供してもらいたい。

大体以上のことなんですが、先ほど申し上げましたとおり、やはりせっかく住んだところが、ついの住みかとなるように、安全で安心で安定及び信頼関係を住民間で構築していくような住民協にしたいなというのが、我々の住民協の考え方であります。

以上です。どうもありがとうございました。（拍手）

【亀井】　　じゃ、最後、永瀬さん、お願いします。

【永瀬】　　沼間小学校区の会長を務めております永瀬です。当協議会は、今回のワークショップは行いませんでした。そのため制限時間は、今のお話は10分あったんですが、私に与えられた時間は5分でございますので、話し言葉から少し朗読になります。聞き苦しいところが

あると思いますが、よろしくお願ひいたします。

住民自治協議会の立ち上げ以来2年がたちました。住民自治協議会は8年前より、沼間小学校区連合会として存在しており、住民協設立趣旨と同じ形態で活動しておりましたので、その継続ということで、現在やつと会として成り立ってきたと思います。

今回討議いたしますワークショップについて、住民協議会より参加を願う要請があり、ワークショップで何を行うかという詳細を承知しないで、会長としてオーケーしたんですが、後から、今回のワークショップは、住民自治協議会のいろいろな問題点を住民と話し合うとのことでした。当協議会は、連合立ち上げ時に多くの問題点を討議し、それらを乗り越えて今日に至っておりますので、もう一度原点に戻り、討議することはよしとしないこととなり、急遽中止させていただきました。講師の亀井先生の講話はぜひお聞きしたいとの希望がありましたが、希望者は他の協議会のワークショップに参加するようお願いいたしました。

何かを行おうとすると、必ず反対者が出ます。反対者が大多数であれば受けとめることは大切ですが、多くは少数反対者の声が大きく、賛成者は意見を述べないということが見受けられます。よって、我々は、中止いたしましたワークショップは、過去にさかのぼりもう一度問題点を討議することを望まなかったのです。反省は必要であります、現在はその時期ではないと考えました。

現在、住民協立ち上げの意見を経て、議論に入るに当たって、住民協の運営方針として、早期より大きな活動ができませんので、会長より13項目の具体的活動方針を提案し、項目を1つずつ代表者会議で討議し、対策していくことになり、その対策を行っております。

その項目は、1つ、主要道路の渋滞解消について、2つ、沼間小学校区内の崖崩れ危険箇所の提出、その対策の順位付け、3つ、自主防災倉庫内の備蓄財の住民自治協議会内の融通について、4つ、地域内のパトロールについて、5つ、防災マップの作成について、6つ、空き家調査について、7つ、各自治会の高齢者対策の照会及び協議会の協力可否、8つ、小学校児童の通学路の見守りについて、9つ、地域全体のごみ問題について、10番、コミュニティーバスの検討、11、東逗子駅前ロータリーの美化運動、12、0円食堂の展開、13、ホテルの里づくりというような項目を挙げまして、1つずつ解決を図ってきました。

5分間の中でご紹介できませんので、後ほどの議論のときにご質問があれば、でき上がった資料はたくさん用意してありますので、ごらんいただきたいと思ひます。

また、今後は、協議会として3年目に入りますので、1つの大きなテーマとして、地域づくり計画を策定することになりました。

以上、いろいろと説明させていただきましたが、我々協議会は、自治会、町内会、管理組合、協力団体、関連団体のご協力で運営を行っております。あくまでも地域のためであり、自助、公助、共助をわきまえ、よい協議会といたしたく思い、情報公開を第一として運営してまいっております。

協議会運営に当たって、余計なことですがお願いがあります。地区、地域の自治会、町内会等及び住民協は、従来の運営方法に対し、協議会を中心とした運営になるように努めておりますが、行政も協議会の問題点を指摘するばかりでなく、協議会が不満に思っていることを早期に把握して、従来の手法より、地域には協議会があるということを前提に、諸対策の改革を願いたく思います。

以上、簡単ですが、沼間小学校区の報告とさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

【亀井】 それぞれの4名の皆さん、ありがとうございました。それぞれに共通すること、ちょっと違うこと、いろいろとあったかなと思います。ここからは、もうすぐフロアに行きますので、しゃべりたい人は準備しててください。ただ、自分のしゃべりたいことだけ考えていると、案外聞けないこともありますので、そこはと思います。

それぞれの発表が終わって安心しないようにと。済みません、今日は私、厳しくて申しわけないんですけど、それぞれのお話を聞いて、ああ、そうだなと思ったこととか、これはいいなまでいっちゃうとなかなかそんなに、また、お互いに男同士で絶賛し合うと気持ち悪いので、何かいいなと思ったこと、これは確かにうちも大変だなと思っていることとか、それからあとは、なるほどそれはいいアイデアだな、うちも取り入れてみたいと思うこととか、もっとこうしたらいいんじゃないか、うちも実は悩んでいるんだけどみたいなどころについて、ちょっと聞いていて感じたことを、4名の方からそれぞれお話しいただければと思います。

じゃ、発言順で済みません、齋藤さんからお願いしたいと思います。

【齋藤】 それでは、私どものほうは池子住民協です。ご多分に漏れず、担い手不足というんですか、非常に苦勞しております。ただ、住民協自体の組織についてはいろいろルールをつくりまして、それにのっとっておるんですけども、小坪さんで6つの部会をつくられましたよね。この6つの部会の担い手さん、これはどういう形で成立されて、どういう方たちがやられているのか。それぞれ多分6つの部会については、会長から書記から会計まで全ていらっしやると思うんですが、そういう人材をどういうふうに見出されて、どういうふうに見出されているのか、ちょっと教えていただければ。

【亀井】 ありがとうございます。じゃ、三原さん、お願いします。

【三原】 6つの部会なんですけれども、部会長は一応我々の役員の中から出しています。今、我々の役員は13名いるんですけれども、その役員の中の一人一人が担い手となってやっているんですが、今、齋藤さんがおっしゃったように、その中で書記だとか、会計だとか、そういうことは一切置いていなくて、ここが悩みどころなんです。部会活動をやっていくと、やはり各自治会とか各種団体の部会活動をやるために集まる負荷がかかる、その負荷がかかることが非常に嫌だよという声が多いことは事実です。

それで、例えばごみ対策問題はごみの問題の方に各自治会から出ていただくとか、それから空き家問題に関しては各自治会長さんに出ているとかと、自治会長さんに負荷がかかってくるところがあって、今のところはまだ検討段階で、ごみの場合は有料化に際してのごみの対策部会をつくったものですから、これは現実論としていろいろな問題、それから日々のことですから、非常に活発にやっているんですけれども、防犯、防災、その防犯のほうは、現実問題として、小坪交番連絡協議会というものが実際に存在していて、そこで実務を行っている。これを実務部隊、青パト運行部会と、それから子ども見守り部会というものを、その住民協の防犯部会のところに置いて、今、交番連絡協議会の会長をやっている方が部会長をやっていますけれども、実務をそこで行っているんで、そのままうまく継続しているような状態です。

ただ、例えばミニバス部会なんかは、南ヶ丘のサイトウさんとおっしゃる方が、今一生懸命、もうほとんどお一人の努力、あとはそこに1人2人の方が入ってやるというようなことがあって、今、齋藤さんがおっしゃったように、部会は発足して実際に人を集めてやってはいるけれども、それが継続可能なのか、それから、きちっとそこで部会活動をやるための組織力として整っているのかということになると、なかなか難しい部分があるんですが、これをテーマとして毎月毎月部会報告を、代表者会議だとか全体会議でやっていますので、これが徐々に実務として実績を上げてくるようになってくると、住民協も認知されてくるのかな、そんな感じがしています。

【亀井】 ありがとうございます。どうでしょう、同じテーマでも結構です。同じテーマで何かあればですけども。ただ、これだけでも多分ないと思う。

じゃ、田倉さんからちょっとまたコメントいただいて、後でもし時間があれば、私がもう少し深めたいと。田倉さん、どうぞ。

【田倉】 私は今皆さんのお話を聞いて、まず1点は、この4チームともかなりリアルな共通項として、空き家問題が提起されたわけなんです。この空き家問題というのはかなり法

的な問題も絡んできますので、行政、この4地区でプロジェクトのごときものをつくって、具体的な活動を早急にすべきではないかという感じはいたしました。それが1点。

それから2点目、情報の発信について、私たち久木は、準備会広場というA4、4ページから6ページの一つの新聞のごときものを毎月発行しまして、それを情報の発信のベースにしているわけなんです。今、池子の齋藤さんのほうからフェイスブック、そして三原さんのほうからスマホ云々の話が出たんですが、このフェイスブックとスマホ等における情報発信のよさというのは、ほんとうにあり得るのかなというのを、ちょっとお聞きしたいなと思います。

最後に、沼間の永瀬さんがお話の一番最後で、住協と自治会云々のお話をされたんですが、私はちょっと聞き取れず、よくわからなかったんですが、結構これは重要な問題なので、もう一度お話し願えればありがたいと思います。

以上、私は3点です。

【亀井】 ありがとうございます。空き家対策の問題はまさにご指摘のとおりで、これはもう、ちょうど市長がいらっしゃいますし、多分これは法的な枠組みで、じゃ、行政が動けるかというとなかなか動けない。何でかという、日本の民法があつて、これは話し始めちゃうと今日は終わっちゃうのでやめておきますけれども、基本的には所有に対する制限がすごく民法は強いんです。これは日本の伝統的に明治以来なんですけれども。なのでこれは実は、それぞれ地域によっては条例ができて、それによって動けるところを少し増やしてという話で、いずれにせよ、多分行政と一緒に動いていただく必要があると思います。

2点目と3点目のところ、情報発信をフェイスブックとかスマホって何の意味があるのかしらという話、それぞれ齋藤さん、三原さん、もしご意見があればということで、いただければと思います。

それからあと、住民協議会と自治会との関係ですね。これも多分大事な話なので、永瀬さんからいただければ。

じゃ、まず齋藤さんから。

【齋藤】 私どもがフェイスブックを活用しているということは、私どもの役員の中に、ほんとうにフェイスブック、それからITに詳しい人もおりますので、その辺で、済みません、ヤナギサワさんのほうからちょっと。

【亀井】 そうそう、わからないことは振ったほうがいいです。(笑)

【柳沢】 済みません、池子小学校区の役員をしております柳沢と申します。よろしくお願ひします。

いろんな人たちが住んでいる池子なので、できれば若い人たちですとか、なかなか会合とかに来られないような人たちにもアクセスできる、そういう場があったほうがいいんじゃないかということで、最近ではフェイスブックというものが市内でも多々広がってきているというのは、私個人のほうではすごく見て思っていたので、そんなものを作ってはどうかということをやっと先に、準備会のときに話をしまして、じゃ、とりあえずやってみてはどうかと。やって損するものではないし、お金がかかるものでもないからということで、お試し感覚で始めています。

で、今に至るんですが、まだまだ私たちの広報活動のほうの足りていない部分もありますが、時にはその記事が数百名の人たちの目にとまっているとかいうこともありますし、たまにはシェアをされていることもありますし、そのページ自体をフォローするということができるので、今後何かこちらのほうから発信するといったときに、それをふとしたときに見てもらえる機会が増える、目にとまる機会が増えるのはすごく大事なことで、紙媒体でお知らせするのももちろん大事なんですけれども、そういったものも使ってもいいのかなと。

なかなかふだんそういった場に行けない人たちにとっては、取り残されてしまう可能性もあるので、自分の都合のいいときに、ネットの中でそういう情報が手に入るというのはいいことかなと思いますし、それを知った人がその周りの人に教えてくれるということもできますよね。なので、そういった形で、これからどんどん広がっていくんじゃないかなとは思っております。そんな感じです。

【亀井】 ありがとうございます。三原さん。

【三原】 私は田倉さんがおっしゃったように、まだ小坪の中ではスマホとか、そういうIT機器を使つての情報発信をやっていない。ですから、今、田倉さんに先に言われちゃったんですが、齋藤さんに、そのフェイスブックはどれだけ効力があるのか、お聞きしようかと思つた。私自身はアナログ人間で、いまだに、何で三原さんはメールをやらないのなんて、文句を言われているんですけども、確かに紙媒体ですと、住民協の運営費の中で、印刷代の占める割合というのは結構多いんですよ。

特に小坪の場合は、去年134メートル、要は逗子マリーナの130メートル高層ホテルの問題で情報が錯綜して、それでそこに住民協が絡んでいるんじゃないかという憶測を生んだ経緯がありまして、それを払拭するために、全体会議だとか、9月26日にやった会議では傍聴者が70人ぐらい来て、その大半がサーファーだったんですが、そういう人たちに対する情報も全て紙媒体でやったものですから、すごくお金がかかっちゃったんです。ですからそういう

意味で言えば、柳沢さんのほうからお話を伺って、確かにこれもあり得るなど。

ただ、ある世代を境にして、私なんかもそうなんです、紙で見ることが、やっぱり自分の頭に入ってくるという人もいるので、その辺のところをどうするかというのがなかなか難しい部分もあるんですが、若い世代には絶対必要だと思うんです。それで、さっき田倉さんがおっしゃったのは、私どもの意見の中で情報発信するんだったら、そういうフェイスブックだとかスマホを使ったらどうだという意見があったということで、まだ小坪の中では全然そういうことをやっていないんです。

住民協でこういったことをやるべきだなという意識は持っています。ですから、齋藤さんにどんなものかなと伺おうとしていました。今よくわかりました。ありがとうございます。

【田倉】 ちょっとよろしいですか。

【亀井】 どうぞ。

【田倉】 今、紙媒体の話が出たんですが、私どもは準備会ひろばという広報紙を毎月出しているんですが、今日この席に、その責任というか、それをほとんどやってくれています鈴木さんがいますので、鈴木さんのほうから費用云々について、ちょっとお話しいただきたいと思っています。

【鈴木】 ご指名がありました鈴木です。費用というか、今400部刷って、紙代含めて大体1,000円弱です。ですから、12カ月出して1万円ちょっと超える程度、このぐらいの費用です。

【亀井】 具体的な話、ありがとうございます。なので、紙も多分。スマホって、見ているだけの人も結構いたりしますので、そういう意味では両方やっていくといいんじゃないかなという話だと思います。ありがとうございます。

じゃ、済みません、永瀬さん、お願いします。

【永瀬】 私どものほうは、今の情報の件については、フェイスブックだとかそういうのは、今、逗子の中で31%ですか、高齢化になっておりまして、なかなか使い切れない人が多いので、なるだけ紙媒体にしてくれという希望が多いので、何を今努力しているかという、1つは毎月の議事録。見ていただくとすごいんです。大変詳しく。これは両面になっていますが。

【亀井】 こんな感じです。

【永瀬】 それを毎月出しております。

【永瀬】 それからもう一つは、定期発行としてたよりを出しております。ほんとうは毎月あったんですが、だんだんなれてきまして、3カ月に1回、このぐらいの量で出しております。

それからもう一つは、一番大事な先ほどのご質問の件でございますが、部会。私どもの組織の中には、部会というのはつくっておりません。なぜかというと、1つは、自治会、町内会、管理組合、これを大事にしよう、その活動を協議会が運用することはしないと。これをしないで自主活動をちゃんとしてもらおうと。

それからもう一つは、関連団体、協力団体と分けておりまして、学校だとかは地域直結ではございませんので、そういうところは一つの関連団体、協力団体というのは、体育会だとかもともとありますので、そこを大事にしようとして、その会長さんが協議会に出させていただくという形で、協議会が直接その運動にかかわることはしないようにしております。

ですから、先ほど申し上げましたように、地域全体の問題、これをどうしようかということをやっております、部会がないから何も活動できないということではございませんで、例えば先ほど申し上げましたように、道路の渋滞解消なんていうのは、こういう旗をつくって、各電柱だとか歩道橋、そういうところに張ろうということ、今展開しております。

それからもう一つ大事なのは、自分たちの地域の中に危ないところがあるのか、何がどこにあるというような地図に、自分たちの沼間小学校区のいろいろな情報を入れて、こういうものをつくって、今進めております。3月31日に完成いたしますが、そういう方向で進めているとか、崖崩れなどはこういうところが危ないですよというのを、各自治会の責任で協議会に出してもらおう。それをこういう地図に載せる、責任は各自治会として持ってもらおうという形で展開していると。

それからパトロールについては、どこの自治会がやっているかというようなことを把握して、やっていない自治会には、我々がやりなさいという命令は出せませんので、やってくれたところには協議会から補助金を出しますから一緒にやりましょうというような展開をしていると。

それからもう一つは、協議会として重要な防犯というのは、地域全体の問題として、このようなパンフレットをつくって、各家庭の門柱だとか門だとかへ張ってもらおうようお願いして、そういうことを協議会としてまとめていると。

ですから、地区の問題は各自治会、それから地域全体の問題は協議会というような区別をしてやっております。それでよろしいですか。

【亀井】 ありがとうございます。

じゃ、三原さん、お願いします。

【三原】 私のほうは、フェイスブックはさっきお聞きしたので、田倉さんのおっしゃった話の中で、有償ボランティアシステムと私はお聞きしたんですが、おっしゃいましたよね。

【田倉】 ワークショップの中での個人の方からの意見として、そういう言葉が出て、そのまま流用したことです。

【三原】 そうするとまだ久木としては、有償ボランティアシステム云々ということはお考えになっていない。

【田倉】 現時点では考えておりませんが、後半3分間のレポートでこれから何をやるかと、この3分の中にそれが1本入ってきます。

【三原】 いや、その有償ボランティア非常に興味を覚えまして。

【田倉】 有償ボランティアシステムというのはご存じだと思いますが、例のコミュニティサービスとイコールな概念だと思うんです。ですから、それは後半の3分の中でちょっぴりお話しいたします。

【三原】 あと、沼間でコミュニティバスを取り上げていらっしゃるの、小坪のほうもそういう部会を立ち上げましたので、お互いに情報交換してやっていければと思っております。以上です。

【亀井】 ありがとうございます。ちょっと済みません、会場の皆さんからもお話を少しいただきたいと思いますので、会場の皆さんから質問や、あるいはご意見いただければと思いたすがいかがでしょうか。急に振られても困る？

【市民】 よろしいですか。

【亀井】 はい、どうぞ。じゃ、そこ順番に。マイクをどうぞ。どちらからとお名前と。

【市民】 アオバ会のコバヤシと申します。空き家の問題なんですけれども、私どもも一応、空き家の持ち主の方の連絡先は把握したんですけれども、実は我々の自治会には、公民館だとか自治会館みたいなものはなくて、ちょっと離れたところに行かないと役員会も何もできないんです。

ご存じのように役員をやられる方は非常にお年の方が増えてきて、できれば自分たちの地域の中の空き家をうまく活用できたらなと思っていまして、皆さんのところでいろいろご検討されている、その空き家対策というのは、火事になったら困るからとかそういうことじゃなくて、空き家を実際にうまく活用していこうということで何かご検討されているのか、もしそういう場合に、使うに当たっての費用の捻出の仕方。例えば今、空き家だったら、電気だとかガスだとか、みんな切られていますよね。そういうものを復活するのにかかる費用だとかの捻出の方法だとか、そういうことをお願いする方法だとかというのがあれば、我々もそれをまねして、うまく空き家を使っていきたいなと思っておりますので、お知恵を拝借できたらなと思っております。

【亀井】 ちょっとまず4名の方に伺いたいんですが、空き家問題って確かに広いんですよ。まず、空き家によって起きる、例えばごみ問題とか、火事問題だとか、あるいは防犯の問題だとか、そういうこととしてやっている地域、手を挙げてください。お二人。今お話があったように、例えばそれを有効活用しようと思ってやっている。両方。なるほど。ありがとうございます。

今のご質問について、何か示唆になるようなお話としてお答えできるようなものがあれば、いただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。なかなか難しいんです。まだそこまで至らないですね。多分いわゆる空き家問題って、これはもう各地域、いろんなところで起きていて、どっちかというところ最初はごみ問題なんですね。あるいはそれが朽ちていってしまっ、あそこが何か、変な話だけれども、ちょっと子供たちが夜集っているよみたいな話になってしまう。そのネガティブな問題を解消するところから始まって、多分そこを有効活用しようとする、そのまにオーナーさんとの間の話になってくるし。

何か済みません、私が答えちゃってあれなんです、それから、さらにはそこのお金の捻出は今度、結局電気代、ガス代、水代は払わないといけませんから、あるいは借りているんだら、そこは誰かに払わなきゃいけない。そこは多分自治会それぞれとして、あるいは協議会それぞれとして、捻出をしなければいけない話になってくると思いますので、そこが非常に難しいですね。

でも、大体どこでひっかかるかというと、普通は持ち主がわからないとか連絡がとれなくなる、あと、そもそもそこに対して何かできるかというところに行政がかかわってくる話になると思いますので、多分そこら辺の問題を整理していくしかないのかなと。今、多分まだ頭出しの段階なのかなというのが、各地域の現状かなと思いました。それ以外何かありますか。どうぞ。

【永瀬】 やっぱり1回貸しちゃうと、今度必要なときに返すというのは、私の浅い概念だと、1回契約すると約20年ですか。

【亀井】 日本の借地借家法。

【永瀬】 借家法で。そういうこともあるので、なかなか貸してくれるというようなことが難しいというのが、やった経験上ですね。以上です。

【亀井】 ありがとうございます。まさに今のお話も含めて、多分すごく難しいお話じゃないかなと思いました。共有の場所としてこれからみんな、その場所をどうつくっていくかというのは、実は地域の共有の課題だと思いますので、ぜひお願いしたい。

【市民】 ちょっとそれに関連して。

【亀井】 ありがとうございます。

【市民】 市長にお願いしたいのは、今、いろいろと地域に公民館なり、それから、今我々は消防団の事務所を使っているんです。いろいろと市でも、消防団の事務所なり建屋なりを改修していこうというお話はあろうかと思うんですけれども、今、我々の一番地元にあるのはそういったところなんです。我々の地域の中には、先ほど言ったようにそういうものがないものですから、ぜひそういうところをうまく活用できるような方法をとっていただければ、我々としては非常に助かるなと思っております。よろしく願いいたします。

【亀井】 ありがとうございます。この問題は結構日本各地であって、ちょうど今、1970年から45年たったところなんです。ということは、その時期にみんな建てたのが、ちょうど崩れかけ始めている。それで今、ちょうど施設の見直しというのが各地域で行われている。何で1970年代かという、小学校を建てたのがそのころなんです。大体行政が持っている財産の約半分が小学校です。この小学校が、例えば統合するとか、逗子の場合はそこまでいかないと思うんですけれども、そういう中で、それに限らず、例えばそれぞれの地域の施設をどうしていくのかというのを、これから多分地域で話し合っていかなきゃいけないというお話があると思います。

まさに今のようなお話というところを、どうこれから考えていくのかというのは、ぜひそれぞれの地域でまた考えていただきたいですし、行政も含めて、なかなか袖は振れないという話も、私が言う話じゃないと思うんですが、(笑) そういうところもあると思います。結局皆さんに回ってくる。かわりに答弁しちゃいますけれども、何かあればどうぞ。一般論としてはそういう話です。

【平井市長】 先生のおっしゃるとおりです。(笑) 将来的には人口は減って、高齢化はさらに進んでということで、なかなか行政としては厳しいというのは、皆さん、ご承知のことだと思うんですけれども、行政としては、今空き家の問題が出ましたけれども、何とか地域のコミュニティーのそういう集まれる拠点を、大体半径300メートルぐらいの歩いていける範囲で、小さくてもいいからつくっていききたいというのは、構想としてはあるんです。

ただ、それを全て行政がお金をかけて建てて運営するということは、もう現実的に不可能なので、だからこれはトライアルしてなかなかうまくいっていないんですけれども、例えば固定資産税を減免する、そのある種多少のメリットを与えて、じゃ、それを地域に一定開放してくださいと、そういったことに賛同して協力してくれる人がいれば、そういう範囲ではいろいろ工夫して、地域と協力しながら、そういった拠点もできていくといいねということは、考え

てはいるんですけども、なかなかそれは実際に手を挙げてくれる人はなかったり、一時期ちょっと可能性が出たかなという物件もあったんですけども、結局やっぱりいろんな障害があって、実現には至らなかったということがあるので、徐々に空き家の問題というのが顕在化してくるので、いろんなケースが出てくると思いますから、そこは皆さんと知恵を出し合ってやっていければと思います。

公共施設全般としてはもう、総面積をかなり減らしていかないと、将来的にもたないというのが、どこの自治体でも課題にはなっているので、それはいろんな工夫で解決していきましょう。

以上です。

【亀井】 まさにこれはみんなで知恵を出し合う、あるいは、ある意味痛みを分け合う話にもなるんだと思います。そこは市長のお話のとおりです。

じゃ、どうぞ。

【市民】 小坪のアリマと申します。ちょっと途中から入ってきたので、もうひょっとしたら話が出ていたかもしれないんですけど、各住民協の運営にかかる資金の問題というか、運営費の問題なんです。各住民協さんはどうしておられるのかなと。もちろん市から交付金がありますけれど、それだけでは足りないということで、小坪のほうでは各自治会さんから会費をいただいて運営しているんですが、実は問題も発生しておりまして、住民協の運営のやり方について不満があるという自治会さんからは、まだ会費が払われていないというようなことになったり、問題がありまして、2点。

1点、そういう全体の運営費について、どういうふうに皆さん、各住民協さんがやっておられるのか、2点目は、そういうふうに皆さんから会費をもらわれたときに、さっきもちょっと話が出てきましたけど、住民協と、それから自治会との関係の中から出てきた問題かもしれませんが、それぞれの自治会さんに負担してもらおうというやり方をやっておられるとするならば、それがうまくいっているのかどうか、もし何か情報があれば教えてもらいたいと思います。

【亀井】 どうぞ。ちょっと時間が押しているので、できれば1分ずつぐらいでお答えいただくと幸いです。

【永瀬】 私どものほうは1番目に協議会、住民協ができたんですが、今どうしているかというと、会費と交付金の両方やっております。その理由は、今回のように交付金がゼロになる、ばかみたいな話がありますので、その対策として会費をちゃんといただいて、自費運営ができるようにしております。交付金の出せるところは交付金で出す、その対象外は会費から出す

というような形で、今おかげさまで、70%の入会率が90%まで上がっています。理解されてきていると思います。

以上です。

【亀井】 ありがとうございます。

ほか、何かありますか。どうぞ。

【齋藤】 池子は交付金だけで行っています。これも住民協をつくるときに、やはり金額、会費というのが非常に問題になると考えたんです。要するに今、自治会自体も高齢者問題が多くて、自治会の会費を払わないから脱会させてくれというような問題で、自治会の会費さえままならないところに、また協議会をつくって、会費を下さい、そういうことでいけば、やはりある程度問題が崩壊しちゃうと私は考えて、協議会は逗子市さんと一緒になってやっていただけるので、交付金だけで賄っていこうということで、池子については交付金だけでやっております。

【亀井】 ありがとうございます。

じゃ、ちょっと済みません、時間も少し押してきましたので。大体逗子はこういうふうになるんです。私のこれまでの経験でよくわかりました。逗子は時間どおりいきません。ほかの地域はなるかという、なるところもあります。逗子はなりません。

じゃ、済みません、最後、1人3分と言って、それぞれ3分多分ご用意されていると思いますので、順番に齋藤さんから、これからの方向性、この次にやること、それぞれ各地区3分でお話をいただければと思います。

では、齋藤さん、お願いします。

【齋藤】 先ほどアンケートの中でもお話ししたんですが、私のほうの住民協は4月に発足して、部会等もまだできておりません。ただ、唯一連合部会といって、自治会の連合だけは整っておるんですけども、これからやっていく部会をつくっていかねばいけない。そのためには、先ほどやりましたアンケート等を参考にしながら、やはり問題点の洗い出し等ほんとうに大変なんですけれども、この問題点を洗い出しながら、住民協で会議しながら、継続性のある部会にしていきたいと思っております。

ですから、ああ、住民協がこれだけのことをやってくれていると。要するに、住民協と市の仕事を認知してもらおうということに努力を重ねていければ、これからまちづくりに尽くしていきたい、そう思っております。

【亀井】 ありがとうございます。

【柳沢】 済みません、話が少し飛ぶかもしれないんですけど、防災の話が出ていたもので、防災マップというんですか、沼間さんのほうがつくられているという話だったんですけど、たまたま私は役員の関係で、池子小学校の社会の授業に参加しまして、そのときに、逗子災害ボランティアネットワークさんという、こちらにいらっしゃる龍村さんが所属されていらっしゃるところの主催という形で、小学校区の中の防災マップをつくろうという取り組みを、実はNHKのぼうさいマップオンラインでやっているところがありまして、そのホームページに登録することができるというシステムのもと、授業が行われました。

4時間ぐらい使って、子供たちと一緒に地域を全部練り歩いて、班ごとにそれぞれ防災設備をチェックして、各班でまとめたものを全体で補填して、後で1枚の大きなマップに載せ、それを提出するというシステムがあつて、それに参加してみたということがありましたので、それぞれの小学校区で、もう既に逗子小学校ではサマースクールでつくられた、久木のほうでは避難所運営委員会のイベントの中で行われたということだったんですけど、これらが全市で行われると、逗子市内の安全マップがオンラインで見られるようになるのは、すごく大きいことじゃないかなと思いましたが、今のところちょっと小さい地域ですけれども、ぜひこれが全市に広がっていくといいかなと思いました。

ちょっと参考までに。

【亀井】 ありがとうございます。

では、田倉さん、お願いします。

【田倉】 これから各地区で何をするかということなんですが、現在、私たちは4月16日の住民協設立総会に向けて、さまざまな準備をしているわけなんですが、その中の一つとして、住民協の最大の執行機関としての部会リーダーの方4名が内定しました。この4名のうち1名の方は代行です。そして先週の2月4日の役員会で、この4名のリーダーに、持ち時間5分で抱負、構想等を話していただいたわけです。そしてこの4名のリーダーの方々の発表を聞きまして、世辞抜きにして、パッションがすごくあつて、私としては個人的にとてもうれしくなった次第です。

そして、そのレポートの内容を簡単にご紹介いたします。4つの部会です。

1つは、ふれあいのまちをつくる部会。このメインイメージは、高齢者の地域福祉の問題です。時間の関係上、サブタイトルだけにしますが、このふれあいのまちをつくる部会のサブタイトルは、「龍村の大風呂敷編」。この龍村さんというのは、何か逗子では有名な方らしいんですが、山の根の自治会の会長をされているわけです。そして、先ほど三原さんがおっしゃって

いましたが、この中身や新しい時代のコミュニティーサービスをつくっちゃおうという、夢とは言いませんが、かなりの大宣言です。

そして2つ目の部会は、地域で子どもを育てる部会。このサブタイトルは、「子どもたちを地域で育む、親の地域活動は我が子のふるさとづくり」。このキャッチフレーズはかなり格好いいと思います。そしてこの内容は、既存組織、PTAや子ども会とも連携しつつ、テーマを持って活動されている方々を支援し、住民協とつなげながら——この住民協とつなげながらも重要なフレーズだと思います。緩やかな子育て、子育てネットワークを確立したい。

そして3つ目の部会は、災害に強い地域をつくる部会。サブタイトルは、「発災時に声かけと抜けのない安否確認ができる地域をつくろう」。発災時に最も大切なことの一つは、向こう三軒両隣の声かけ、そして安否確認。減災の基本は、地域を知り、そして地域に住む人を知ること。まず地域をするために、いざのときに役立つ地図をつくってみよう。

そしてラストの4番目の部会。拠点の運用、活用を考える部会。先ほど拠点の問題が出ていましたが、私どもの拠点は久木小学校区の中心にある久木会館、これが拠点になっています。このサブタイトルは、「現実を踏まえての会館運営のあり方と将来展望」。現在の会館は、ほとんど貸し部屋業務が主となっているんですが、将来は住民協、あるいは会館主催のイベントを増やして、地域住民の集う場所に変えていきたいと。

これが4つの部会の抱負であり、構想です。そして4月16日に総会が開催されるわけなんですけど、総会の後に懇談会を設定しまして、この懇談会においては、この4つのテーマについてフリートークをする予定でございます。どのように展開していくか、ちょっぴり楽しみです。

以上です。

【亀井】 ありがとうございます。

じゃ、次、三原さん。

【三原】 小坪小学校区では、まず原則的に住民自治協議会は何かということ、もう一度再認識すべきじゃないかなと。そもそも住民自治協議会というのは、自治会、町内会、それから各種団体、小坪小学校区ではこれで31団体なんですけど、こういう方々が一堂に会して、それでその地域のこうしたらいいんじゃないか、ここは困るねといったことを話し合っ、そこから課題を抽出して、地域のためによかれと思うことを実施していくのが協議会のあり方だと思っています。

何も自治会の上に協議会があるとか、協議会が上から目線で自治会に物を言うとかというこ

とでは一切ないんです。みんな同じ立ち位置に立って話し合うということが大事なことなので、これを勘違いしている人がいる。これが非常にネックになっています。これがまず1つです。

それと、やっぱり協議会は何かといったら、亀井先生もおっしゃっているんですが、楽しくなければ人は集まらない。だからその会議で人の揚げ足をとったり、人をおとしめたり、組織をそしるような行為があると、これは会議に出てきておもしろくない。それでそういう人がいると、こちらが真摯にそれに答えても、見方によってはけんかしているねと見る人もいる。そんな会議は嫌だね、だから、やっぱり楽しくなる会議にしましょう、それには前向きな意見を言いましょうということですね。それが私は第一だと思っています。それは原点に戻って考え直さなきゃいけない部分があって、これからそういったこともやらなきゃいけない。

それと、やっぱり協議会というのは物事を共有して、対話をして、物事を決議するという協議の場と、それからそれを意思決定したらば活動に移すということ、これは亀井先生もおっしゃっていますけれども、この2つが肝心なので、これをきっちりやる。ですから、今の小坪小学校区では6つの部会がありますけれども、この6つの部会がきちんと活動して、それをサポートしながら実績を上げていくということが、まず第一だと思っています。

以上です。

【亀井】 ありがとうございます。

じゃ、最後、永瀬さん、お願いします。

【永瀬】 私どもの協議会は自主運営を旨としておりますので、協議会が勝手なことばかり言わないように心がけて、ぜひ行政のほうも、先ほど小坪住民協の言われたように、協議会があるという前提でいろいろなことを対処していただきたいなど。3年経験いたしまして感じたことでございます。

それから、協議会の拡張です。何とか協議会にたくさん入ってもらおうと、こういうことをがたがた言ってもなかなか入ってきませんので、やっぱり地道なことをやっていけば、私どももひとりで、何か会計からの報告だと、90%の世帯で会費を払ってくれるようになりました。1つずつ進めていけばよろしいんじゃないかと思っております。

それからもう一つは、先ほど防災の件でありましたが、今、自主防災組織と避難所運営委員会という2つの動きがあるんです。これはなぜ2つやっているのか。自主防災組織があつて、その後避難があるので、1つの体系でいいんじゃないかと。これが行政の考える縦割りということじゃないかと感じております。ぜひこれを一体という考え方に持っていくような、この話じゃなくて、縦割りというやり方をもう少し考えてほしいなど。

以上でございます。

【亀井】 どうもありがとうございました。それぞれ4名の方に、なかなか話しにくいことも含めて、ざっくばらんにお話をいただきありがとうございます。それでは4名の方に拍手をいただければと思います。ありがとうございました。(拍手)

私もここに来ている以上、少し最後に簡単にまとめてお話をしたいと思います。今、お話がありました。結構大事なお話がそれぞれあったと思います。そこら辺を踏まえて、少しもう一回お話をしたいと思います。

1つ目、今、三原さんからもお話があったんですけども、協議会もそうだし、これは自治会もそうなんですが、基本的には、皆さんがかかわっている、この協議会とか自治会というのは、2つの機能があります。

1つは、課題を共有すること。ああ、あそこのうち大変なんだってとかいうことも含めてです。それが1つ。それから、それを持ち寄って話し合いをすること、協議をすること。それから意思決定をすることです。じゃ、うちの地域でこれをやろうと決めていくことです。これが1つ。

それからもう一つは、事業活動を行うことです。さっきの田倉さんの言葉をかりれば、新しい時代のコミュニティーサービス。

基本的にはそういうところから考えていかなきゃいけないのかなと思います。

この2つに分けて考えるというのが大事です。どっちの人がいないかということ、まず、でもみんなで意思決定をするんだから、みんなに参加してもらわなきゃいけないということですよ。ここはぜひ意識をしてください。少数で決めない、ここは大事です。

もう一つ、人がなかなか集まらないという、下のほうの話なんです。この上の構造と下の構造を分けて考えるというのは、実は協議会運営ではすごく大事なことだと思います。

それから今日、それぞれの地区の話がありましたけれども、自分自身の経験を伝えるのに、うちではこうやってやったとか、ああ、こっちは違うんだというようなことも含めて、この逗子の中でもやり方が違うことがあるわけですから、そこはぜひいろんな形で情報共有していくことをお勧めしたいと思います。

それからもう一つ、できないことにくよくよしない。できないことはたくさんあるんです。協議会は万能じゃありません。自治会だってそうです。万能じゃありません。だからできないことにくよくよしない。あとはマイナスばかり考えない。あれできなかったなじゃなくて、これできたじゃんというのが大事だろうなと思います。

僕も自分で持病を持っているんです。私は死ぬまでぜんそくという病気と一生つき合っているかなければいけません。だから、この時期は実はインフルエンザが一番リスクが高いので、外に出るときはマスクをしています。これはそういうのと一緒に、だから病気を持ちながら生きていくということでしょう。それなりに承知しています。

地域もそうです。そんなにみんながすっきりうまくいった社会なんか絶対ないです。これはもう歴史にかつてずっとないです。そういうふうを考えて、そんなに全部うまくいかないんだということが当たり前だと思ってやっていると、結構やりやすいんじゃないかなと思います。そこはぜひ意識していただけるといいと思います。

ただ、お互いに褒めるのは大切ですね。これはいいねとか、あれはいいねとか、それはいいアイデアじゃない、それは具体的にこういうのがいいねという話です。ただ、皆さん、褒めるのってなかなか難しいですよ。私もうちの子をどうやって褒めたらいいのか悩んでしまいます。しょうがないよな、俺の子だからと思って、なかなか褒めるのを諦めちゃうんですが、でも地域においてはぜひ皆さん、褒めてください。

どうやって褒めたらいいんだろうなと思っていたら、ちょうど先月出た本で、これは河野さんという、僕のちょっと知り合いなんですけれども、この人は編集者なんです。この人がつくった本の中にこういうのがあります。ちょっと細かいんですけど、これは後で事務局に資料を渡しますから、知りたい人はぜひ読んでみてください。竹下和男さんという方が香川県の綾川町でお弁当の日というのをやったそうです。

これは結構女性の方は知っているかもしれません。これをやると実は、その日休んじゃう子がいたりだとか、そういうこともあって、いろんな批判もあったそうです。批判もあったけれども、それは実は、我々大人が受けとめなきゃいけないメッセージなんだということも含めて、それを受けとめたそうです。

この人が何年間かやった後に、卒業式に校長先生が子供たちに言った話です。ちょっと幾つか読んでみましょうか。

「食事を作ることの大変さがわかり、家族をありがたく思った人は、優しい人です。手順良くできた人は、給料をもらう仕事についてたときにも、仕事の段取りのいい人です。食材がそろわなかったり、調理を失敗したりしたときに、献立の変更ができた人は工夫できる人です。友達や家族の調理のようすを見て、ひとつでも技を盗めた人は、自ら学ぶ人です。かすかな味の違いに調味料や隠し味を見抜けた人は、自分の感性を磨ける人です。旬の野菜や魚の、色彩・香り・触感・味わいを楽しめた人は、心豊かな人です。一粒の米、一個の白菜、一本の大根の

中にも命を感じた人は、思いやりのある人です。賢い人です。想像力のある人です。幸せな人生が送れる人です。情け深い人です。慈しむ心のある人です。たくましい人です。人とともに生きていける人です。社会をよくしていける人です。世界をよくしていける人です。人に好かれる人です。独り立ちしていく力のある人です。感謝の気持ちを忘れない人です。家族の愛に包まれた人です」。

世の中に、こんなに褒め言葉があるんです。私はびっくりしました。どうしようかなと悩んだんです。地域で褒めるってすごく大事なんだけれども、褒めるってどうやったらいいんだろうかと、僕もほんとうに悩んでいたんですが、ここにお手本がありました。これ以外にも、もちろん褒め方はたくさんありますよね。多分僕よりも人生経験がたくさんある方は、たくさんのお言葉をお持ちだと思います。

まさにこうやってお互い褒め合えたら、それが一番のご褒美じゃないですか。もちろん有償ボランティアが進んでいくのもいいと思います。もちろん働いた分についてお金を払う、このやりとりは当然あっていいと思います。やってもいいんだけど、でも基本的には地域においては、これからの社会はなかなかお金が回らない中でいけば、やっぱりお互いの褒めるというのは最大の報酬でありまして、だからまた行こうと思うんです。また行こうと思えば、だんだん人が集まってくるわけでありまして、そういう意味では、褒めるというところをぜひ意識してもらいたい。

ただ、男同士で褒めていると嫌らしいですし、女同士で褒めていても、そこは僕はコメントしませんから、そういうのも含めて、褒め方ってこういうふう褒めるんですよ。私もこれはなるほどなと思いました。いや、いいときに先月本が出てくれたなと思いました。どうしようかなと思って。ずっと逗子でこの褒めるについて何を話そうかと思っていたんです。これはちなみにブログがあるから、竹下和男で幾つか検索すると出てきますし、これを事務局に渡しておきますから、この資料はまたもらってください。

最初の褒めるは、まずは「ありがとう」です。いつもここをきれいにしてくれてありがとう。ここを片づけてくれてありがとう。今日ご飯をありがとう。さっきもありましたよね。お昼ご飯をみんなで食べたら何か楽しかったですよね。ああいうのも含めて。それが地域でみんなで作ったなら、なおさら楽しいわけでありまして、それで時間が押したというネガティブなことはあえて言わずに。言っちゃっているじゃないかという話ですけども、そういうことも含めて、まずは「ありがとう」から始めていくと、みんな人が集まる場所になるんじゃないかなと思います。

ここで、時間は押しているんですが、それでも1分ください。皆さんちょっと1分で、一人一人考えてみてください。ここ数年振り返って、ああ、僕は幸せだなと、何か加山雄三みたいですがけれども、私は幸せだわと思ったのはいつのことでしたか。はい、では1分、どうぞ。隣と話さないでくださいね。あと10秒ぐらいですね。ここまでで思いついていない人はまずいです。(笑)

はい、1分たちました。どうでしたか。それぞれ多分思いついたことがあるんですが、多分これは世界を征服したとか、向こうの頂点に立ったとか、金メダルをとったとかという人はあまりいないと思います。別に隣の人と話していただいてもいいですし、それはやや露出狂ぎみなんですけれども、俺の幸せはさとか、私の幸せを聞いてほしいんだという方がいたら、終わった後にここで1人でしゃべっていただいて結構なんです、多分そんなに大きな話じゃないですよ。ささいなことなんです。

私がうちに帰って起きてくるのは犬だけです。犬は偉いですね。起きてきます。うちのかみさんは起きてきません。でも、ソファで寝ながらテレビを見て、テレビがつけっ放しで寝ているところを見ると、起きていようという意欲があったんだなというところは感じられます。そこに幸せを感じます。天下泰平だなと思います。でも、これを壊されたら怒りますよね。それを壊されたら怒るんですよ。その当たり前にある日々のことというのが、多分幸せなんだろうなと思います。

皆さんが地域でつくる幸せも、多分そういうことなんだと思います。温かい豚汁、もしかしたらそういうことかもしれません。そういうようなことも含めて、実は地域にある、さっきの写真の話、そこにある地域で生きていく思い出の話がありましたけれども、地域で生きていく思い出というのは、そこにある小さな幸せの積み重ねです。子供が自転車に乗れるようになった、子供が何か喜んで帰ってきた、そういうのも含めてです。あるいは自分の連れ合いがとか、何かいろんなことがあるかもしれません。別れもあるかもしれませんが、でもそれも含めて幸せもあるんじゃないかなと思います。

ちなみに最後にちょっとこれは、済みません、多分今日は私より年配の人が多いただろうなと思って、皆さんより年配の人の知恵を連れてきました。これは90歳に学ぶ「失われつつある44の価値」。90歳以上の方。すごい、いらっしやいましたね。もうほとんどそれは神様、仏様に近い人ですから。

実はこれは東北大学の先生が、90歳に学ぶ「失われつつある44の価値」といって、ずっと日本全国を回って調べてきたことだそうです。1番、自然と寄り添って暮らす。2番、自然

を生かす知恵。3番、山、川、海から得る食材。これはこの地域にありますよね。4、食の基本は自給自足。5、手間暇かけてつくる保存食。6、質素な毎日の食事。7、ハレとケがありますけれども、ハレの日のごちそう、それから8、野山で遊びほうける。9、水を巧みに利用する等と44あるんです。44、最後は、生かされて生きるとありました。43はちょうどいいあんばい。その前がちょっといい話をする。ささやかなぜいたく。いろいろとあります。

これがやっぱり地域で生きていくことの価値なんだと思います。もちろん都会に出てお金を使って、いろんなことがあるかもしれないけれども、それも幸せにつながることはあります。それは浦安市にある東京何とかかんとかというネズミーランドに行ってもいいです。それはそれでももちろん価値なだけけれども、でも、日々の幸せというところは多分こういうところにあるんだろうなと思います。まさにこの豊かに暮らす知恵を大きくしていく、あるいはそれを壊すものを少しずつなくしていくというのが、住民自治協議会の大きな仕事なんじゃないかなと感じました。

これは実は、何で最後にこのお話を持ってこようかなと思ったかという、皆さんの話から感じたことがこれなんです。私自身が何かここで偉そうに話をしていますけれども、私は3回、各小学校区でそれぞれ皆さんの話を聞かせていただいて、今回私もすごく逗子の皆さんから勉強させていただいたのは、皆さん自身にその価値観、こういう地域にしたいという思いがあるんだということ、それから、そこにある幸せというのはこういうことなんだということを、私自身受けとめさせていただきまし、学ばせていただきました。そこはほんとうに感謝しております。

だとするならば、まさに初心貫徹みたいなところでありまして、その初心忘るべからずで、こういったところのこの地に生きていく、この地をついの住みかにするるとどなたかおっしゃいましたけれども、そういった一つの支えとして、この協議会をうまく生かしていただいて、それはそれぞれのいろんなトラブルもあるかもしれないけれども、そこを最後は大きな気持ちで、また楽しい気持ちで受けとめていただけたらいいんじゃないかなと思います。

それぞれの地域にそれぞれ課題があって、個別にもいろいろとご相談いただきました。また何かありましたら、それは別に、私もそれこそボランティアベースで、いろいろとご相談に応じることができればなと思っております。改めて今日はありがとうございましたということで、私の発表、どうもありがとうございました。(拍手)

【司会（細野）】 ありがとうございます。繰り返しません。では先に。

平井市長、この思いと今日の感想を含めてお願いします。

【平井市長】 皆様、2時間にわたりましてほんとうにありがとうございました。前で発表いただきました4名の皆さん、ほんとうにありがとうございました。そして亀井先生も、非常に軽妙なといいますか、軽快なお話で、楽しい2時間を過ごせたと思います。

住民自治協議会の皆さん、それぞれ苦労があって、自治会との関係とか、あるいは人材の不足とか、いろいろと課題はあると思うんですけども、やはりその地域をほんとうによくしたいという思いを、皆さんが強く持って、そしてそれを共有するからこそ、前に進めるんだと思うんです。

行政に足りないことも多々あるわけなので、それは私としても真摯にしっかりと受けとめて、ただやはり、それぞれがそれぞれやれること、やれないことというのはあるので、それをお互いに褒め合って。私はあまり褒められることもないんですけども、できれば職員も頑張っていますので、ちょっとおだてて、褒めて、うまく使ってください。もし足りないところがあれば、それはもうしっかりと指摘していただいて、ちゃんと受けとめるだけの度量は私も含めて持って、皆さんと接していきたいと思っております。

こういう住民自治協議会という動きが、今、全国でやはり広がっております。国のほうも、もうこれはやはり地方創生の重要なテーマだという捉え方をしているんです。したがって、逗子でこの議論を始めて、もう五、六年になると思うんですけども、こうして今日、皆さんがこれだけたくさん集まって、いろいろと悩みはあるけれども、一步一步前に進んでいるということと皆さんと一緒に共有できたことは、とても私にとっても勇気づけられましたし、皆さんとともにまた苦労していける、そういった元気をもらいました。ぜひこれからも皆さんと力を合わせて、この逗子のさまざまな課題をともに取り組んでいきたいなと思います。

あともう一つ、情報という意味では、市でホームページとかを持っているので、ぜひそこをもっとうまく活用できるようにしていきたいなと思います。特に若い世代というのは、やはり今、スマホだとか、インターネットとかというところで情報をキャッチしているし、逗子もここ一、二年で、子育てのサイトであるとか、あるいは市民活動のサイトであるとか、そういういろんな関心のある人たちにアクセスしてもらいやすいような取り組みを広げています。

特に子育てのホームページなんかは、かなりママさんたちには重宝されていて、そこで地域のいろんな情報とかをキャッチして、自分の子供とどうやって過ごそうかという情報を得ているんです。ですから、若い世代とか子供たち、そういったテーマも、皆さんにとってもとても大事な課題だと思うので、そういうところを結びつけ、皆さんの活動とそういう情報を欲しがっている人がつながって、そしてそこに参加し、また地域の若いお父さん、お母さんも、皆さ

んと一緒に活動を展開していくことによって、いろんな形で地域での協力者が増えていくようにしたいなと思うんです。

今は働き方改革なんていうことが国の大きなテーマになっていて、もう夜はできるだけ仕事に縛られないで、地域に帰って、地域での暮らしを充実するワーク・ライフ・バランスというのが、とても生産性を上げるという意味でも大切だし、幸せな暮らしという意味でも大切なんだという価値観が、すごく広がってきていますよね。ですから、徐々に若い世代も地域に戻ってくると信じています。そういうときに、どういう場があるかということがとても大事なので、それをまさに今、ここ何年かかけて、皆さんと一緒につくっていると思っていますから、どうぞこれからもよろしく願いいたします。本日はほんとうにありがとうございました。(拍手)

【司会(細野)】 ありがとうございます。では、終わりますが、2つだけお願いがあります。

1つは、今日受付でお配りしたプリント、配付物が若干ありまして、この2つ。3・11のイベント、防災ひろばというプリントと、もう一つは、「サンマとカタール」というイベントがありますので、またご都合をつけて、ぜひ参加していただければと思います。

もう一つは、感想用紙が含まれておりますので、これを踏まえてまた、皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えておりますので、お書きいただくようになります。

それから、先ほど言いました、椅子を片づけたくなっちゃうと思いますが、職員がたくさんおりますので、どうぞ忘れ物なくお帰りくださるのがご協力です。朝早くからほんとうにありがとうございました。(拍手)

— 了 —